

令和4年度
名古屋大学大学院情報学研究科

博士前期課程

数理情報学専攻
複雑系科学専攻
社会情報学専攻
心理・認知科学専攻
情報システム学専攻
知能システム学専攻

学生募集要項
(令和4年4月入学 2月実施)

名古屋大学
大学院情報学研究科

自然災害により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について

名古屋大学では、自然災害等被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、入学試験の検定料免除の特別措置を実施いたします。

なお、詳細は本学ホームページでご確認ください。

○本学ホームページ

URL <https://www.nagoya-u.ac.jp/>

入学案内＞大学院入試・学部編入試など

◆ 不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じる場合があります。試験日程の延期が難しい場合、中止の可能性もあります。変更が生じた場合は、下記ホームページ等により周知しますので、定期的にご確認ください。

○情報学研究科ホームページ

URL <https://www.i.nagoya-u.ac.jp/graduate-school-of-informatics/>

新型コロナウイルス感染症における名古屋大学の活動指針に沿った選抜方法の実施について

新型コロナウイルス感染症に罹患した受験生や、試験当日に発熱の症状があるなど体調不良の受験者については、必要に応じて代替措置を講じますので、学生募集要項11頁にある照会先までできるだけ速やかに連絡してください。

日本国以外の国籍を有する受験生の方へ

【安全保障輸出管理について】

名古屋大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「東海国立大学機構安全保障輸出管理規程」を定めて、外国人留学生等の受入について、厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する教育・研究活動ができない場合があります。

※学生募集要項に記載の時間はいずれも日本標準時として記載してあります。

令和4年度 名古屋大学大学院情報学研究科 博士前期課程学生募集要項

令和4年度に本研究科博士前期課程（修士課程として取り扱う課程）に入学を志願する学生を以下により募集する。

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 日本の大学を卒業した者及び令和4年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和4年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (8) 令和4年3月31日までに大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
(注) 出願資格(8)により出願する者は、12頁の「出願資格(8)により出願する者について」を参照すること。
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和4年3月31日までに22歳に達する者
(注) 出願資格(9)により出願する者は、13頁の「出願資格(9)により出願する者について」を参照すること。
- (10) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当す

る学位を授与された者及び令和4年3月31日までに授与される見込みの者

2. 募 集 人 員

数理情報学専攻	若干名
複雑系科学専攻	若干名
社会情報学専攻	若干名
心理・認知科学専攻	若干名
情報システム学専攻	若干名
知能システム学専攻	若干名

(注) 試験に合格した場合でも教育上の配慮により、志望する指導教員の指導を受けられないことがあるので、必ず出願前に志望指導教員に入学後の研究・教育等について問い合わせること。(詳細は「教員と研究内容」を参照すること。)

教員の研究内容等については、(<https://www.i.nagoya-u.ac.jp>)を参照すること。

3. 願書受付期間及び出願手続

令和3年12月21日(火)から令和3年12月27日(月)16時まで(郵送必着)

志願者は、出願書類を取りそろえ、本研究科所定の宛名用紙を貼り付けた封筒に入れ、情報学研究科教務学生係に郵送すること。出願書類の持参及び電子メールでの出願はできません。

- (1) 出願書類は、簡易書留郵便(日本国外から送る場合は追跡記録が残る方法)で送付すること。
- (2) 受験票は、郵送で本人に交付する。試験1週間前までに到着しない場合は、情報学研究科教務学生係に確認すること。
- (3) 出願書類に不備のある場合は、受け付けないので留意すること。
- (4) 出願手続き後は、書類の変更、差替、返却は受け付けないので留意すること。

4. 出 願 書 類

入学志願票等の所定用紙は、情報学研究科ホームページからダウンロードし、A4判用紙に片面印刷のうえ記入してください。(ダウンロードした様式にPCで入力したものも使用可)

全員が提出する書類

- (1) 入学志願票(【様式1】に記入したもの)
- (2) 受験票、写真票(本研究科所定の用紙に記入したもの)
- (3) 志願理由書(【様式2】に記入したもの)
- (4) 履歴書(【様式3】に記入したもの)
- (5) 受験票送付用封筒(市販の封筒をご用意ください)

長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に出願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、速達料金の344円分の切手を貼ったものを提出してください。(ただし、日本国内への送付を希望する場合に限ります。日本国外への送付を希望する場合は、A4サイズの封筒に、出願者の郵便番号、住所、氏名を英字で記入し、日本の切手1400円分または国際返信切手券(IRC)11枚を同封すること。)

(6) 可否通知送付用封筒

長形3号 (23.5cm×12cm) の封筒に出願者の郵便番号、住所、氏名を明記し、速達料金の344円分の切手を貼ったものを提出してください。(ただし、日本国内への送付を希望する場合に限ります。日本国外への送付を希望する場合は、A4サイズの封筒に、出願者の郵便番号、住所、氏名を英字で記入し、日本の切手1400円分または国際返信切手券 (IRC) 11枚を同封すること。)

(7) 宛名シート (本研究科所定の用紙に記入したもの)

(8) 卒業 (見込) 証明書, 学位 (取得見込) 証明書又は出願資格を証明する書類 (コピーは不可)

名古屋大学情報学部卒業 (見込) 者, 情報文化学部卒業 (見込) 者は不要
すでに大学を卒業した者は, 「学士」の学位を取得したことがわかる証明書を提出すること。

外国の大学を卒業した者は, 大学又は公証所等が発行した証明書 (日本語あるいは英語で書かれていない場合は, 英訳版を添付) を提出すること。

(9) 成績証明書 (最終出身大学作成のもの) (コピーは不可)

名古屋大学情報学部卒業 (見込) 者, 情報文化学部卒業 (見込) 者は不要
外国の大学を卒業した者は, 大学又は公証所等が発行した証明書 (日本語あるいは英語で書かれていない場合は, 英訳版を添付) を提出すること。

(10) 英語外部試験の成績通知書

英語筆記試験は行わないので, 英語外部試験: TOEIC L&R公開テスト, TOEFL-iBT, IELTSまたはDuolingoの成績通知書を必ず提出すること。成績通知書は, 2019年4月1日以降受験分を有効とする。

「TOEFL-iBT Home Edition」も有効とする。

詳細は, 6頁の「5. 英語外部試験の成績通知書について」を参照すること。

(11) 入学検定料 30,000円 (ただし, 国費外国人留学生として入学する予定の者は, 入学検定料不要)

- ・入学検定料は, 14頁の「コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法」を参照の上, コンビニエンスストア又はクレジットカードで払い込んでください。コンビニエンスストアで受領した「収納証明書」又はクレジットカード支払い後に自ら印刷した「収納証明書」を入学志願票の所定欄に貼ってください。
 - ・日本国外在住者は, クレジットカードで払い込んでください。
 - ・払込手数料 (コンビニ支払い: 616円 クレジットカード: 840円) が必要となります。
 - ・出願期間に限らず入学検定料の支払いが可能です, 入学料を支払い済みでも, 出願期間中に書類が到着しなかった場合は, 出願は受け付けられないため留意してください。
- 【注意】出願書類を受理した後は, いかなる理由があっても納入済みの検定料は返還しない。ただし, 以下に該当する場合は, 納入された検定料を返還する。なお, 返還にかかる振込手数料は差し引いて振込む。

① 検定料納入後, 出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

② 検定料を二重に払い込んだ場合

※ 入学検定料の返還は銀行振込で行われる。日本国外の銀行の口座に返還する場合には, 返還される金額は大きく減額される他, 返還に多大な日数を要するため, 入学検定料の納入は慎重に行うこと。

返還請求方法については, 名古屋大学ホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/>)
→入学案内→大学院入試・学部編入試験など→入学検定料について を確認すること。

(12) オンライン口述試験・口頭試問に関する誓約書 (【別紙2】に記入したもの)

(13) オンライン口述試験・口頭試問連絡票 (【別紙1】参照。Eメールアドレス及び

携帯電話番号などをインターネットによるアンケートフォームにて出願期間内に提出すること。)

- (14) その他卒業論文等，本人の研究能力を示す資料がある場合には，それらを1部（コピーでよい）及び必要に応じてその概要を1部提出することが望ましい。

該当者のみ提出する書類

- (1) 外国人の出願者は，在留カードのコピー（両面），市区町村長の発行する住民票の写しまたは住民票記載事項証明書のいずれか提出すること（いずれも在留資格を確認できるものであること。住民票コード通知書は不可）。
また，現在日本国外に在住している者は，国籍を確認できるもの（例えばパスポートの国籍が記載されている顔写真のある頁のコピー）を提出すること。出願書類等には，これらの証明書に記載された氏名を用いること。
- (2) 官公庁，会社，団体等に在職中で入学後も引き続き在職する者は，受験承認書を提出すること（様式は随意）。入学後退職する予定の場合は，その旨記した申出書を提出すること（様式は随意）。
- (3) 外国人留学生で日本語能力試験を受験したことがある者は，合格証又は成績通知書のコピーを提出すること。コピーしたものを提出する場合は，「これは原本の複写に相違ありません」と記入し，署名又は押印すること。
- (4) 現在国費留学生である者はその証明書（在学している大学発行のもの）を提出すること。ただし，学内からの出願者は提出不要。

5. 英語外部試験の成績通知書について

英語外部試験の成績通知書のみ（コピーの提出可。ただしコピーを提出する場合は自筆にて「これは原本の複写に相違ありません」と記入し，署名又は押印すること。）出願期間とは別に後日提出することができる。最終提出期限は，令和4年1月27日（木）16時（必着）とし，それ以降は受け付けない。提出の際は，情報学研究科教務学生係あてに簡易書留郵便で送付すること。なお，一度提出した成績通知書の返却や差し替えはできない。また，提出期限までに提出（到着）しなかった場合は，欠席として取り扱う。

6. 選 抜 方 法

6.1 筆記試験における英語外部試験成績の採用

本研究科では，英語外部試験：TOEIC L&R公開テスト，TOEFL-iBT，IELTS，Duolingoの成績を英語の成績とする。研究科入試の英語筆記試験は実施しない。

変換の目安は，以下の表のとおりである。以下の表は，The Educational Testing Network Serviceのホームページにある変換表などを参考に作成したものである。

TOEIC L&R	TOEFL-iBT	IELTS	Duolingo	変換後の成績
580	61	5	85	59
649	69	5.5	95	66
729	79	6	100	74

807	90	6.5	110	82
867	100	7	120	88
956	109	7.5	—	97
986	111	8-9	130	100

6.2 選抜方法の詳細

- (1) 入学者の選抜は，専門及び口頭試問の成績並びにその他提出された書類による総合評価で行う。
- (2) 専門及び口頭試問は次の日程により行う。
- (3) 専門及び口頭試問は，新型コロナウイルス感染防止のため，オンラインで実施する。自己の責任において，ビデオ通話が可能な機器（カメラ付きパソコン，タブレット，スマートフォン等）を用意するとともに，良好かつ安定的なインターネット環境を確保すること。
 なお，実施方法等詳細は，出願後，各受験者に交付する受験票に同封する文書または電子メール等により連絡する。
- (4) 口述試験及び口頭試問については，原則として遅刻は認めない。

6.3 試験概要

- (1) 専門 令和4年2月14日（月）

専攻名	試験時間 試験方法	出題範囲
数理情報学専攻	13:30～ 口述試験	数学，数理情報又は志望する分野の基礎
複雑系科学専攻	9:00～ 口述試験	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1) 卒業研究の内容についての発表（10分程度） 受験者は卒業研究またはそれに代わるものなど，学部時代に行った研究内容，および大学院時代に行いたい具体的な研究テーマについてパワーポイント等を用いて発表する。 (2) 質疑応答（20分程度） 上記で発表した内容について，質疑により受験者の研究能力およびそれを裏付ける学力を問う。また本専攻を受験する目的や大学院での希望研究テーマなどの質疑により，受験者のコミュニケーション能力や勉学意欲を評価する。

社会情報学専攻	開始時間は後日通知する案内に従うこと。なお、開始時間は、前後の関係で多少変動する。また、受験生多数の場合、口述試験を2月14日もしくは15日に実施する可能性がある。	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1) 卒業研究の内容についての発表（10分程度） 受験者は卒業研究，セミナーなど学部時代に力を注いだ学習内容，および，大学院時代に行いたい具体的な研究テーマについて発表する。 (2) 質疑応答（20分程度） 受験者の在籍（又は出身）学部を考慮して，受験者の基礎学力を問うための試験を質疑応答形式で行う。また上記で発表した内容を裏付ける基礎知識も問う。さらに，本専攻を受験する目的や大学院での希望研究テーマなどの質疑により受験者のコミュニケーション能力や勉学意欲を評価する。
心理・認知科学専攻	13:30～ 口述試験	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1) 卒業研究の内容についての発表（10分程度） 受験者は卒業研究，セミナーなど学部時代に力を注いだ学習内容，又は，大学院時代に行いたい具体的な研究テーマについて発表する。 (2) 質疑応答（20分程度） 受験者の在籍（又は出身）学部を考慮して，受験者の基礎学力を問うための試験を質疑応答形式で行う。また上記で発表した内容を裏付ける基礎知識も問う。さらに，本専攻を受験する目的や大学院での希望研究テーマなどの質疑により受験者のコミュニケーション能力や勉学意欲を評価する。
情報システム学専攻	13:30～ 口述試験	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1) 情報システム（離散数学，オートマトン・形式言語，アルゴリズム，論理学，コンパイラ，プログラミング，論理設計，計算機アーキテクチャ，オペレーティングシステム，情報ネットワーク，ソフトウェア設計法）に関する口述試験を行う。上記11科目の中から出題される6問の課題から，受験者が3問を選んで解答する。 (2) これまでの研究内容（卒業研究など）についての口頭試問 ・卒業研究を履修していない場合は学部で履修したセミナーの内容，また，卒業研究，セミナーのいずれも履修していない場合は本専攻科で希望する研究の内容で代えることができる。

知能システム学専攻	口述試験 開始時間は後日通知する。	一人30分程度で以下の形式により行う。 (1) 解析・線形代数, 確率・統計の2科目に関する口述試験 (2) これまでの研究内容（卒業研究など）を含む一般的な項目についての口頭試問 ・卒業研究の内容を含む一般的な項目についての口頭試問・卒業研究を履修していない場合は, 学部で履修したセミナーの内容, また, 卒業研究, セミナーのいずれも履修していない場合は本研究科で希望する研究の内容で代えることができる。 ・これまでの研究内容（卒業研究など）の概要（A4判1頁程度）を用意すること。
-----------	----------------------	--

(2) 口頭試問

専攻名	試験時間
数理情報学専攻	2月14日（月）の口述試験の中で実施
複雑系科学専攻	2月14日（月）の口述試験の中で実施
社会情報学専攻	2月14日（月）（受験者多数の場合, 2月14日もしくは15日に分けて）に, 口述試験の中で実施
心理・認知科学専攻	2月14日（月）の口述試験の中で実施
情報システム学専攻	2月14日（月）の口述試験の中で実施
知能システム学専攻	2月14日（月）の口述試験の中で実施

7. 合 格 発 表

令和4年2月21日（月）12時 情報学研究科棟玄関に掲示する。

なお, 郵送により可否を本人宛通知する。

また, 掲示発表後, 本研究科ホームページにおいても発表する。

ただし, これは受験生の便宜を図るための速報であるため, 必ず掲示又は郵送される可否結果通知により確認すること。

8. 入 学 手 続

入学手続については, 令和4年3月上旬本人に通知する。手続日は, 令和4年3月下旬の予定である。

9. 入学料及び授業料

(1) 入学料 282,000円

ただし, 国費外国人留学生は, 入学料を要しない。

(2) 授業料 春学期分 267,900円（年額535,800円）

ただし, 国費外国人留学生は, 授業料を要しない。

（注1）入学料は入学手続き時に納入する。授業料は, 春学期及び秋学期に分けて, 春学

期にあつては5月、秋学期にあつては11月に納入する。
(注2) 入学時及び在学中に学生納付金額の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用される。

10. 日本語を母語としない志願者へ
出願書類を英語で書いてもよい。

11. そ の 他

- (1) 出願資格、出願書類及び選抜方法等本研究科入学試験に関して不明な点は、あらかじめ問い合わせること。
- (2) 障害等があつて試験場での特別な配慮を必要とする者にあつては、令和3年12月13日(月)までに、以下3点を添えて、その旨を情報学研究科教務学生係へ申し出ること。
 - 1) 受験上の配慮申請書(障害の状況、受験上配慮を希望する事項とその理由等を記載したもの、様式随意、A4サイズ)
 - 2) 障害等の状況が記載された医師の診断書、障害者手帳等(写しでもよい)。
 - 3) 障害等の状況を知っている第三者の添え書(専門家や出身学校関係者などの所見や意見書)。
 - 4) 適宜それ以外の書類を添付しても構わない。
なお、受験や入学後の修学に関して相談の希望がある者は、出願期限までに問い合わせること。
- (3) 名古屋大学においては、構内への車両の入構規制を実施しているので、受験の際は、公共交通機関を利用すること。
- (4) 不合格者のうち希望する者については、科目ごとの試験成績を次の要領により受験者本人に開示することができる。
申請期間 : 令和4年2月22日(火)から3月7日(月)10時から16時(土日祝日を除く)
申し込み方法: 本研究科所定の「入学試験開示願」を様式により申し込むこと。
様式の送付を希望する者は、情報学研究科教務学生係へ申し出ること。
- (5) 住所・氏名・生年月日その他の個人情報、入学選抜、合格発表、入学手続き及びこれらに付随する事項にのみ利用する。また取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には利用しない。
- (6) 5年一貫のリーディングプログラム「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」については、合格者の中から選抜が行われる。
(詳細は、Webページ <https://www/rwdc.is.nagoya-u.ac.jp/>を参照すること。)
- (7) 卓越大学院プログラムについて: 卓越大学院プログラムは、文部科学省が2018年に導入した5年一貫の博士課程プログラムである。大学院生が研究と多様な能力の開発に打ち込めるようにするため、特別な経済的支援が用意され、さらに、TAやRAを通して指導能力を学び、追加の収入が得られるような仕組みが用意されている。情報学研究科では、以下のプログラムに参画している。
 - ・情報・生命医科学コンボリユーシオン on グローカルアライアンス卓越大学院(CIBoG)
情報システム学専攻および知能システム学専攻は2019年度より本プログラムに参画している。詳細は以下のHPを参照。
<https://cibog.med.nagoya-u.ac.jp/>

- ・ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム (TMI)

すべての専攻が2020年度より本プログラムに参画している。詳細は以下のHPを参照。

<https://www.tmi.mirai.nagoya-u.ac.jp/>

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により，試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は，ホームページ（<https://www.i.nagoya-u.ac.jp/>）により周知するので，定期的を確認すること。

【照会先】〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院情報学研究科教務学生係
TEL 052-789-4721・4722
<https://www.i.nagoya-u.ac.jp/>
E-mail: admission@i.nagoya-u.ac.jp

出願資格（8）により出願する者について

1. 出 願 資 格

令和4年3月31日までに大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

2. 資 格 審 査

2.1 提出書類

出願資格（8）により出願する者は、次の書類を令和3年12月6日（月）16時（必着）までに、情報学研究科教務学生係へ郵送（簡易書留郵便で封筒の表に「前期課程事前審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての資格の事前審査を願ひ出ること。

- (1) 事前審査申請書（【様式4】に本人が記入したもの）
- (2) 履歴書（【様式3】に本人が記入したもの）
- (3) 学業成績証明書（在籍大学において、学部2年までのもの）
- (4) 在籍大学の指導教員の推薦書（様式自由、日本語又は英語）

2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し、その結果は令和3年12月20日（月）までに本人宛通知する。

3. 試 験 と 提 出 書 類

3.1 一次選考

提出書類：資格審査の結果、「出願資格あり」と判定された者は、募集要項の「4. 出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。ただし、全員が提出する書類にある「(4) 履歴書」「(8) 卒業証明書等」「(9) 成績証明書」の提出は不要である。

合格条件：通常の大学院試験において、通常の受験生と同一の問題、同一手続きによる筆記試験及び口頭試問において非常に優秀な成績を修めること。

3.2 二次選考

提出書類：入学する年の3月5日（土日に重なる時はその前日）までに3年次の成績証明書を提出する。

合格条件：以下の二つの条件を満足すること。一次選考で合格しても二次選考の条件を満たさなければ入学を認めない。

- (1) 3年次終了までに卒業必要単位の4分の3以上を取得していること。
（随意科目は含まない）
- (2) 3年次終了までに取得した科目の8割以上において成績が優以上（あるいはA以上）であること。
（随意科目、可否のみで判定する科目等は優の比率の計算の基数に含めない）

出願資格（９）により出願する者について

1. 出 願 資 格

本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和4年3月31日までに22歳に達する者

本研究科が「大学を卒業した者と同等以上の学力があると認める者」は、以下の2つのいずれかの要件を満たす者を想定している。

- (1) 学術論文、著書、研究発表、特許、作品等により、卒業論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者
- (2) 技術職や教育職などの専門的職業に就き、成果を挙げている者

2. 資 格 審 査

2.1 提出書類

出願資格（９）により出願する者は、次の書類を令和3年12月6日（月）16 時（必着）までに、情報学研究科教務学生係へ郵送（簡易書留郵便で封筒の表に「前期課程個別審査申請」と朱書）し、出願資格の有無についての資格の個別審査を願うこと。

- (1) 個別審査申請書（【様式5】に本人が記入したもの）
- (2) 履歴書（【様式3】に本人が記入したもの）
- (3) 個別審査シート（【様式6】に本人が記入したもの）
- (4) 卒業証明書（最終学歴の教育機関のもの）
- (5) 成績証明書（最終学歴の教育機関のもの）
- (6) (該当する場合は)業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等の写し
- (7) (該当する場合は)研究職／専門職従事証明書（【様式7】に所属の長等が証明したもの）

2.2 審査結果の通知

本研究科で資格審査を実施し、その結果は令和3年12月20日（月）までに本人宛通知する。

3. 出 願 書 類

資格審査の結果、「出願資格あり」と判定された者は、募集要項の「4. 出願書類」に記載の書類を出願時に提出する。

ただし、全員が提出する書類にある「(4) 履歴書」「(8) 卒業証明書等」「(9) 成績証明書」の提出は不要である。

コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法

コンビニ端末で直接お支払の場合(インターネット不要) ※日本国内のみ

クレジットカードでお支払の場合

1 お申込み

セブン-イレブン
マルチコピー機

<http://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある
「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「学び・教育」より
お申込みください。



学び・教育

入学検定料等支払

LAWSON
Loppi

<http://www.lawson.co.jp>

MINISTOP
Loppi

<http://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」
にある「Loppi」へ。



TOP画面の「各種サービスメニュー」より
お申込みください。



「各種申込(学び)」を含むボタン

学び・教育・各種検定試験

大学・短大・専門、
小・中・高校等お支払い

名古屋大学大学院 をタッチし、申込情報を入力して「払込票/申込券」を発券ください。

※漢字氏名入力欄において、漢字氏名のない方はカナ入力してください。

※画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い

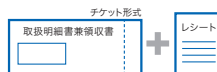
①コンビニのレジでお支払いください。

端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi)が
出力されますので、**30分以内にレジにてお支払いください。**



②お支払い後、チケットとレシートを2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」(マルチコピー機)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi)。



※お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。

※お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。

※すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

<パソコン・スマートフォン>

本学「入学検定料支払い」ページにアクセス



<https://e-apply.jp/n/nagoya-u51/>



申し込む から

画面の指示に従って出願する入試を
選んだ後、基本情報を入力。

入力内容が表示されます。間違いがなければ、
次のページで表示される「受付番号(12桁)」
を必ず控えたうえ、お支払い画面に進んで
ください。

※カード決済完了後の修正・取消はできません。
申込を確定する前に、内容をよくご確認ください。

クレジットカードでお支払い



●お支払いされるカードの名義人は、受験生
本人でなくても構いません。
但し、前段の画面で入力する基本情報は、
必ず受験生本人のものを入力してください。

お支払い後に上記URLまたは支払い完了
メールに記載されたURLへアクセス(※1)し、

「**収納証明書の印刷**」からPDFファイルを
ダウンロードの上、**印刷**してください。

※1:お申込の際に発行された「受付番号(12桁)」
が必要です。

上記URLからアクセス



※PDFファイルを印刷するためのプリンターが必要
となります。

3 出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の
「収納証明書」部分を切り取り、志願票の「入学検定
料収納証明書貼付欄」に貼付して郵送ください。

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある
欄は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



【操作などのお問い合わせ先】 学び・教育サポートセンター <https://e-apply.jp/> ※コンビニ店頭ではお応えできません。

名古屋大学大学院情報学研究科

● 研究科の基本理念

情報革命は二つの側面を併せ持っている。第一にそれは人類の抱える問題とその解決をより複雑なものにした。人類が直面する問題は、自然・人間・社会・人工物が絡まり合うことで生み出されてきた。これに膨大な情報が加わることで、問題はさらに複雑さと困難さを増した。第二に、情報革命は問題解決手段の大幅な拡充をもたらしている。自然・人間・社会・人工物は「情報の流れ」として統合的に理解することができ、情報科学技術は、その緩やかな統御を通じて、人類が直面する複雑かつ困難な課題に新たな解決方法を与える可能性をもつ。さらに情報革命は、既存の問題の解決手段に留まらず、新しい価値創造のための手段も与えてくれる。

こうした情報科学技術の潜在的可能性を十分に開花させ、問題解決と新たな価値創造を実現するために、本研究科では、分野横断的な知恵としての新しい「情報学」の創造を目指している。自然・人間・社会・人工物を、情報の流れを創出するシステムとして統一的に理解することを目指す。そして、その理解に基づき、新しい情報の流れを総体としてデザインし、狭義の情報処理技術のみならず、法・規範や制度・組織・意思決定までを含む「広い意味での情報システム」を構想・実現することで、人類の生存と幸福に寄与する。

● 研究科の教育

情報革命の進展にともなって、情報処理手法を活用することにより膨大なデータを分析して新規性と価値のある情報を取り出す方法論の開発がアカデミックな優位性を保つためにきわめて重要になっている。さらに、自然・人間・社会・人工物にわたる現象を情報処理過程と捉えてモデル化する見方や、さらには膨大なデータそのものをモデルの代わりとする見方がさまざまな分野に取り込まれ、情報という枠組みを共通言語とすることで分野間の融合が進みつつある。

また、我が国の産業は、情報科学技術を活用した社会イノベーションの創造や業務革新においては、他国に遅れをとっている。そこで、情報科学技術に関する最新の知識に加えて、自然・人間・社会等の実世界についての深い理解をもつ人材が求められている。そして、情報科学技術と実世界を繋いで、価値創造をデザインするとともに、それを実世界で実現していく人材が求められている。

そこで、情報学研究科の博士前期課程では次のような3つの資質を備えた高度情報職業人の養成を目指す。

- 1) データ・サイエンス、数理科学、複雑系科学の手法を駆使し、シミュレーションを通して自然や社会などの実世界を情報学の視点から統一的に理解し、問題解決に結びつけることができる
- 2) 人間の意思決定プロセスの理解に基づき、情報社会における組織や制度の設計等を通して、情報科学技術を価値創造に結びつけることができる
- 3) 最新の情報科学技術の知識と人間・社会に関する理解を通して情報社会の安全性、快適性の向上に資する知能情報システムを創造できる

● アドミッションポリシー

情報科学のもつ学術及び社会への影響力を理解し、その理論・技術基盤を探究し、実践的活用を目指す意欲と基礎学力のある学生を受け入れる。

● 学位

本研究科の博士前期課程において、所定の修了要件を満たした者に対しては、修士（情報学）又は、修士（学術）の学位が授与される。

● 専攻の概要

数理情報学専攻、複雑系科学専攻、社会情報学専攻、心理・認知科学専攻、情報システム学専攻、知能システム学専攻の6つの専攻により構成される。

1) 数理情報学専攻

自然現象や社会現象を解明するためのデータ・アナリティックスと情報数理モデルに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

近年のインターネットの整備、携帯端末の普及、計算機性能の向上など、情報技術の急速な発展により、大量の情報が我々の社会の至るところにあふれている。それらから意味のある情報を抽出して解析し、それに基づく意思決定を行うために数理情報学は有効な理論と方法を与える。

数理情報学専攻では、情報学の基礎を支える数理科学の研究・教育を行う。その実現のためには、広く自然や社会等の実世界における現象をデータ分析から情報学的に理解し数理モデルを構築することが重要である。このモデル構築作業を基に情報に関連する基礎数理を解明し展開することで、本専攻では情報学を深く豊かに発展させてゆく。そしてこれを通じて、数理科学的方法を身につけて情報学の応用と発展に中心的役割を担う研究者・高度情報技術者を養成する。

2) 複雑系科学専攻

データを問題解決に結びつけるシミュレーションやデータ・サイエンス、デザイン等に関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

自然や社会における複雑系は、情報を伝達・変換・蓄積する能力を持つ、多数の分子、ニューロン、生物・人間個体などの要素（エージェント）からなるネットワークとして構成されており、“情報流動”を創造する分散型情報システムとみなすことができる。その大きな特徴は、要素間の相互作用を通して、要素単独の性質からは予期できないような秩序構造や高次機能を動的かつ自律的に生み出す自己組織化にある。複雑系科学専攻では、こうした構造や機能の自己組織化過程を“情報流動”のダイナミクスに基づく“情報処理”過

程とみなすことにより、理論・実験・計算の革新的方法を開発適用して普遍的な視座を構築し、情報流動の原理を明らかにするとともに実践的な知を生み出すことを目指す。

そのために、多岐にわたる自然・人間・社会・人工物など実世界の複雑系現象を対象に、個別の革新的方法の開発手法とそれらの総合的な適用手法に加えて、従来の要素還元的方法ではない、モデル系を「つくることによって理解する」構成論的方法を教育する。こうして、実世界の現象をシミュレーションとデータ・サイエンスの視点から理解するとともに、情報流動の原理を新しい分散型情報システムの設計へと応用し、革新的・総合的思考や構成論的思考による新しい発想に基づいて知識や技術を創造できる優れた技術者と研究者を養成する。

3) 社会情報学専攻

社会情報学専攻では、新たな科学的知見の獲得や技術的イノベーションとそれらの市民への提供、社会規範や制度の設計・構築、さらには芸術に見られる新たな価値創造とその社会への定着などに関する原理的研究を行う。その基盤の上で、ICT の利活用による様々な規模におけるコミュニティの活性化と科学技術コミュニケーションの質的向上、さらにはソーシャル・メディアを含む情報の産出・流通・消費のグランドデザインを構築する。とりわけメディア環境のグローバル化、マス・メディアとソーシャル・メディアとの相違と相互影響という視点からの新たな人間観・社会観・価値観に基づくメディア・社会・文化の構築を進める。

これらについて研究を行うとともに、以上の研究を基礎とした教育、また中部地方を中心とする国内外の自治体や報道機関・主要企業との間で培ってきた研究・教育や社会連携を通して、高度な倫理・規範意識と専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した人間力を培い、技術と社会のよりよい関係の構築に貢献する人材を育成する。

4) 心理・認知科学専攻

人間や社会の問題に関わる認知・心理的情報処理に関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

心理・認知科学専攻では、知・情・意などの人間の心の働きを、心理実験、社会調査、脳活動測定、コンピュータ・シミュレーション等の手法を用いて明らかにする。ハードウェアとしての「脳」、ソフトウェアとしての「認知情報処理」、インタフェースとしての「身体」、さらには人間が作り出す環境としての「社会」との結びつきなど、多様な観点から人間の心の働きを理解するとともに、人と人、人と人工物、人と環境の間の相互作用やコミュニケーションのメカニズム、プロセスを解明する。

それらの人間の心に関する深い理解に基づいて、システム、環境、サービス、社会等の各領域に表出する諸問題を解決し、新たな価値を創造するためのコンセプト・方法、例えば、人間の特性に関する深い科学的理解に基づく VR（仮想現実感）システム、AR（複合現実感）システムやその他自動化システムの設計、学習支援の開発、デザインや情報伝達媒介の提案、幸福な高齢社会への提案、公正な社会の構築などを遂行できる人材を育成する。さらに、その成果を芸術、医療、教育、人工知能、社会科学諸領域など、様々な学問領域と結びつけることにより、心理学、認知科学、人間科学、および関連する他分野の創発的発展に寄与できる人材も育成する。

5) 情報システム学専攻

情報システムを創造するための情報科学技術とセキュリティに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

情報システム学専攻では、社会における利便性、安全性、快適性の向上を実現する情報科学技術の創造を目的とした情報システムの教育・研究を行い、効率的で信頼できる情報システムの設計・開発のための情報基盤プラットフォームおよびソフトウェアに対する理論と技術の基盤を確立する情報システム学の新たな発展を目指す。さらに、高信頼アルゴリズムや高度な計算モデルに対する研究に基づいたより高い効率と信頼性を実現する理論と技術の創造によって、情報システムの継続的な進化を探究する。ネットワーク接続により時間的・空間的に境界のない巧緻な次世代情報システムの設計と開発に適用できる情報システム学の教育研究を通じて、システム構築において指導的な役割を担える高度情報技術者及び情報システム学の発展を担える研究者を養成する。

6) 知能システム学専攻

知能システムを創造するための実世界のデータ化と解析，人間と情報システムとのインタフェースに関する知識や能力に重点を置いて教育を行う。

情報システムを社会課題の解決に活用するためには、実世界，すなわち自然，人工物，社会活動から情報を取り出し，人間にとって意味ある形式として情報を処理することが不可欠である。情報システムを新たな価値の創造に活用するためには，処理した情報を実世界に働きかけ，その結果をさらなる情報として取り出す循環が必要である。

知能システム学専攻では，このような情報の取得，富化と循環を実現するために必要な理論と技術を，人間の知性・感性・身体と情報システムとにまたがった領域において探求するとともに，それらを探求する人材を養成する。具体的には，（１）知能システム学の基礎となる理論と技術として，画像・映像処理，音声・音響処理，行動信号処理，自然言語処理，応用人工知能，応用データ・サイエンスなどについて，また，（２）知能を処理するシステムを設計するための理論と技術として，知的ユーザインタフェース，人間支援技術，データアナリティクスなどについて，さらに，（３）様々なフィールドにおける知能システム学の社会実装のための理論と技術として，医療情報，法・歴史情報，教育情報などの応用技術について，それぞれ探求する。

数理情報学専攻 教員と研究内容

下に入学後に指導を受けることのできる教員とその研究内容を示します。下表の「教員」欄の教員名を希望の強い順に志願理由書の志望教員／講座／研究グループ欄に記入してください。試験に合格した場合でも、教育上の配慮により、志望する教員の指導が受けられないことがあるので、必ず事前に志望教員に電子メールなどで問い合わせてください。

電子メールアドレス及び研究内容の詳細は
<https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/mathematical/>
 を参照してください。

講座	教 員	研 究 内 容
数理情報基礎論	(教授 吉信 康夫) ※	公理的集合論，巨大基数公理，一般位相空間論
	(教授 小野 廣隆) ※	アルゴリズム理論，数理計画法，グラフ理論，パラメータ化アルゴリズム，近似解法，ゲーム理論
	准教授 佐藤 潤也	数論，類数公式，L-関数，岩澤理論，Bernoulli数
	(准教授 木原 貴行) ※	数理論理学，計算可能性理論，記述集合論，ランダム性
数理情報モデル論	教授 柳浦 睦憲	組合せ最適化，数理計画法，メタヒューリスティクス，近似解法，スケジューリング
	教授 西村 治道	量子計算，計算量理論
	教授 ブシェーミ フランチェスコ	量子情報，量子測定，量子エンタングルメント，量子基礎論
	(准教授 大館 陽太) ※	グラフアルゴリズム，アルゴリズム的グラフ理論，パラメータ化アルゴリズム
	(助教 土中 哲秀) ※	グラフアルゴリズム，パラメータ化アルゴリズム，アルゴリズム的ゲーム理論，経済ネットワーク分析
	助教 加藤 晃太郎	量子情報理論，量子多体物理，量子誤り訂正，テンソルネットワーク，トポロジカル量子計算

※印の教員は、令和4年2月実施の博士前期課程入試では学生を募集しません。

複雑系科学専攻 教員と研究内容

入学後に指導を受けることのできる複雑系科学専攻に所属する教員とその研究内容を下に示します。複雑系科学専攻への入学を希望する者は、志望する教員名を志願理由書の志望教員／講座／研究グループ欄に記入してください（第1志望は必須。第5志望まで記入可）。志望教員は同じ講座に所属していなくても構いません。配属先は原則として、入試成績、志望理由書の記載内容及び志望教員の受入れ条件を考慮して決定します。

また、志望する教員が今回募集を行わない場合もありますので、必ず事前に電子メール等で問い合わせてください。メールアドレスは教員名下のアルファベットに続けて @i.nagoya-u.ac.jp です。

講座	教 員	研 究 内 容
多自由度システム情報論	教授 谷村省吾 tanimura	古典力学及び量子力学の幾何学的・情報理論的研究を行っている。代数的量子論，量子古典対応，情報熱力学，物理学への圏論の応用などを研究している。また，人工知能の数理的研究も行っている。
	教授 時田恵一郎 tokita	生態系，代謝反応，遺伝子ネットワーク，脳，情報通信・情報処理システム，流通システム，社会ゲームなどの，多様で複雑な相互作用をもつ大規模多種・生物・社会ネットワークのダイナミクスや進化の問題を，統計力学やシミュレーションを用いて理論的に研究している。
	准教授 中村泰之 ynakamura	統計物理学を背景としながら，オンラインテストのデータを中心とした学習データの解析（ラーニング・アナリティクス）の土台の上に，「学習」を複雑系の対象の一つとして，その数理的理解を目指している。関連してeラーニングシステムの開発も行う。
生命情報論	教授 太田元規 mota	構造バイオインフォマティクスの研究を行っています。具体的なテーマは，タンパク質の配列からの立体構造予測，立体構造からの機能予測，タンパク質の相互作用解析，タンパク質のデザイン，比較ゲノム，システムバイオロジーなどです。
	教授 吉田久美 Yoshidak (2023 年 3 月退職予定)	生体分子が示す複雑系現象の研究を，ポリフェノール類を中心に行っている。多彩な花色の発現機構，環境調和型色素増感太陽電池，アルツハイマー病治療薬の創成などに天然物化学，計算化学，分子生物学，多面的なアプローチで取り組んでいる。
	准教授 青木摂之 aoki	私たちのラボでは，微生物や植物を用いて，「生物リズム」の分子機構とその進化について研究を進めています。主に分子生物学的な手法で解析を行っています。
	講師 塚本眞幸 tsukamoto	有機合成化学を基盤に，ヌクレオシド，ヌクレオチド及び核酸の合成研究を行っています。特に，有用な生理活性を持つ情報伝達物質及びその誘導体の合成，構造化学的に興味深いヌクレオチドの合成，分子触媒を用いた高選択的な反応の開発を行っています。
	助教 小池亮太郎 rkoike	バイオインフォマティクス，計算構造生物学，生物物理学に関する研究を行っている。現在の主なテーマは，タンパク質間のインタラクションと，それにともなうタンパク質のレスポンスの解析。また，それらの記述・可視化ツールの開発やデータベースの構築なども行っている。
物質情報論	教授 古賀伸明 Koga (2023 年 3 月退職予定)	コンピュータを用いた量子化学計算により，化学反応の様子やそれを支配する電子的因子を理論的に明らかにする。特に，分子の持つ構造的及び電子的情報の伝達・変換という観点から，有機化学反応，有機金属反応，触媒反応などを研究する。
	教授 長岡正隆 mnagaoka	物質現象における非平衡性と非定常性の本質を物理学と化学の理論的手法により探る。原子・分子が織りなす複合化学反応や生体反応の反応制御・立体制御・構造制御の実体を研究すると共に，アプリ開発や3D-CG モデリングを通して技術的・視覚的理解を深める。
	助教 井内 哲 iuchi	分子動力学法や量子化学計算を用いた計算機シミュレーションをもとに，溶液や界面での物質の構造や電子状態を明らかにする。現在は特に，金属錯体や有機色素などの励起状態の性質やそのダイナミクスに関する研究を行っている。

講座	教員	研 究 内 容
創発システム論	教授 有田隆也 arita	人工生命手法や創発シミュレーションで生物進化の全体像や人間の本性(心, 言語, 利他性)を理解し応用したい。[自主設定テーマ例: 仮想生物進化, 心やメタ認知の進化, セルオートマトン生命, ゲームAIプレイヤー進化, 利他行動促進型ゲーミフィケーション]
	教授 北 栄輔 kita	社会, 経済, 人工物等における現象の数理モデル化とシミュレーション, ロボットや Web サービス, 逆問題などへの応用。[キーワード: ITS, 群ロボット, ベイジアンネットワーク, 文法進化, 人工市場, 計算力学, 構造デザイン, Web サービス, データマイニング]
	准教授 永峰康一郎 nagamine	呼気中アセトンに着目した簡便なダイエット指標の開発, 特定の元素に関する地球化学図の濃度分布と地名の分布との関連性の検討など, 自然・社会に存在する幅広い情報から有益な関係を見出すことをテーマとして研究を行っています。
	准教授 鈴木麗璽 reiji	生物集団, 人間社会, 人工物等に生じる創発的な振る舞いに対して, 人工生命手法を用いた構成論的アプローチによる理解とその応用を目指している。現在は, 進化と学習の相互作用, 学習とニッチ構築の共進化, 協調行動の進化等について研究している。
複雑系計算論	教授 渡邊 崇 Watanabe (2023 年 3 月退職予定)	流体情報学として, 流れの仕組みの究明と, 流れの制御を目指して, 数理モデルの構築とシミュレーション, 可視化, コンピュータビジョン, 機械学習などを用い, 自由表面流, 回転流の計算流体力学や, 物の流れ, 群衆の行動を対象に, 研究を進めている。
	教授 大岡昌博 ohka (2023 年 3 月退職予定)	ロボットの新しい計測制御法及びバーチャル・リアリティの実現のため, 心理物理実験法や数値シミュレーションなどにより, 視聴覚・触覚など複雑なヒトの感覚情報処理機構を解明して, その数理モデルを構築する研究を進めている。
	教授 張 賀東 zhang	大規模な系を扱える分子シミュレーション法およびシミュレーション結果を検証できる高精度な計測法を確立し, 計算と実験の両面からナノ領域に特有の力学現象を解明して, 自動車の燃費向上や情報記録装置の大容量化などへの寄与を目指している。
	准教授 鈴木泰博 ysuzuki	情報学。とくに、情報による意味・秩序の生成を目指した、情報の表現・変換技術の探究を行う。
情報可視化論	教授 内山知実 uchiyama	計算流体力学, とくに渦法に代表される Lagrange 型数値解法を用いた混相流や乱流の数値シミュレーションに取り組んでいる。また, 渦輪を用いた分散性混相流の流動制御に関する実験的研究にも注力している。
	准教授 安田耕二 yasudak	人工知能による化学知識の学習と獲得知識を用いた分子の自動生成, 超並列計算機を用いた科学技術計算のアルゴリズムやプログラム, 分子や固体の新しい量子化学理論の開発。 [ニュートラルネット, グラフ理論, GPU, CUDA, 密度行列, グリーン関数]。

社会情報学専攻 教員と研究内容

希望の講座を下の表から選び、志願理由書の該当欄に、その講座名を記入してください。第1希望から第3希望まで記入することができます（第1希望は必須です）。

なお、入学試験に関する注意や入学後の研究教育に関する相談のため、第1希望講座の中で志望する教員には、必ず事前に電子メールなどで問い合わせてください。事前の問い合わせは入学試験受験にとって重要な役割をもちますので必ず行ってください。各教員のメールアドレスについては、次のURL（https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/study_a04/）から確認すること。

ただし、配属される講座は、入学試験成績や各講座の受け入れ条件によって決定されます。

講 座	担当教員	研 究 内 容
情報哲学講座	教授 戸田山和久	科学哲学・科学技術社会論の観点から、情報科学を含めた科学や技術のありかた、技術者倫理・情報倫理の基礎について研究している。 ●情報の哲学，とくに「情報」概念の分析，情報倫理の概念的諸問題 ●個別科学（数学・生物学・心理学・脳神経科学・地球惑星科学）の哲学 ●科学实在論の擁護，科学における「モデル」と還元的説明の関係
	教授 秋庭史典	技術の産物が人や社会と協働しながら多様性を維持する方法を明らかにし，その成果を情報社会のなかで生かすことを目指している。そのために， ●美学と情報学を協働させ， ●人工物がコミュニケーションを誘発するのはどんなときかを調査している。
	准教授 久木田水生	記号を用いたコミュニケーションにおける意味の創発。広い意味での情報技術（ここには言語や記号システム，科学理論なども含まれる）と，人間の認識や社会構造の間の相互作用，特に近年はロボット工学に関する哲学的倫理的問題に焦点を当てて研究・考察している。 ●ロボット倫理学 ●数学の哲学，論理学の哲学
	准教授 新美倫子	遺跡出土の動物骨や貝殻から過去の人々の食生活や狩猟・漁労等の生産活動を復元するなど，環境考古学的な研究を行っている。出土動植物遺体の年代測定や植物質食料の資源利用モデルなどを利用し，新しい切り口を目指している。 ●動物考古学の手法を用いた食生活の復元，生産活動の研究 ●先史時代以来の人間による環境への適応と破壊に関する研究
情報社会設計論講座	教授 安田孝美	情報社会の設計手法について，教育・文化・行政・産業等各分野における先端の情報通信技術の利活用と，それらがもたらす新しい情報社会の在り方について研究を行っている。 ●社会イノベーションと社会システムデザイン ●電子政府と地域情報化 ●デジタルミュージアムにおける情報デザイン
	准教授 遠藤 守	教育・産業・行政等，各分野への可視化や情報ネットワーク技術の適用を研究課題とし，これに基づくシステム開発とその実践的活用に関する応用研究を進めている。 ●オープンデータ／オープンガバメント推進 ●データビジュアライゼーションとデータサイエンス ●情報基盤技術の開発と実社会での応用

	准教授 浦田真由	地域・観光・教育等のコミュニティにおける社会的課題を対象に、ウェブやソーシャルメディア等を活用した社会システム設計およびその有効性の評価に関する研究を行っている。 ●自治体オープンデータの推進 ●地域コミュニティにおけるソーシャルメディアの活用 ●教育・観光コミュニティを支援する ICT 利活用
グローバルメディア論 講座	教授 中村登志哉	主要国、特にドイツと日本を中心に、外交・安全保障政策を国際・国内世論やメディアの論調との関係に注目し、国際関係論の理論的枠組みを使って分析する研究を進めている。 ●政策過程における世論・メディアの役割 ●外交・安全保障政策の2層ゲーム理論による分析 ●国際社会における認識（パーセプション）に関する諸問題
	教授 山本竜大	政治過程や選挙と（マス・）メディアの関係、技術の影響を検討している。研究アプローチは多様であるが、実証的な事象の説明、解明を意識しながら、以下の領域における研究に取り組んでいる。 ●現代の選挙キャンペーンにおけるメディアの利用法、メッセージ分析 ●政治過程に関連するメディア・コンテンツの分析 ●情報コミュニケーションと関連政策、（新しい権利など）諸問題の関係分析
	准教授 井原伸浩	アジア諸国によるメディア・情報関連政策の決定過程や、そうした政策の国内政治・外交への影響について、歴史的・現代的諸問題を研究している。 ●国家間シグナルの研究 ●パブリック・ディプロマシー ●いわゆるフェイクニュースをめぐるプラットフォーム・ガバナンス
	准教授 小川明子	社会的包摂を目指すメディアの可能的様態を歴史的、比較文化的視座から探りつつ、異なる意見や背景を持つ人びとが、メディアを通じて、いかに互いに理解できるのかをテーマに研究を続けている。 ●デジタル時代のメディア・リテラシーをめぐる理論と実践 ●デジタル・ストーリーテリングをはじめとする、発信型メディア実践の評価、理論構築 ●放送を中心としたメディア・コミュニケーションの歴史社会的研究

心理・認知科学専攻 教員と研究内容

以下に入学後に指導を受けることのできる教員とその研究内容を示します。

志願理由書の志望教員／講座／研究グループ欄に志望教員名を記入してください。志願者は指導を希望する教員に事前に連絡してください。連絡先は本学 Web サイトの教員一覧(https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/study_a05/)を参照してください。

講 座	担当教員	研 究 内 容
認知科学	教授 三輪和久 教授 川合伸幸 助教 光松秀倫	認知科学・計算機科学・言語科学などの手法と知見を基礎とし、情報の理解と表出並びに記憶や思考における知識表現とその理解と遂行に関する問題を中心に、情報処理の観点から広く人間の認知活動に関わる精神活動の解明を目指す。研究内容のキーワード：○科学的発見・創造/洞察過程・問題解決・学習科学・学習支援システム・モビリティ・自動車運転支援 ○学習・記憶・進化・発達・比較認知・感情（恐怖・怒り）・仮想現実・脳波・NIRS ○意図的行為・因果性知覚
	客員教授 小林哲生＊	認知科学・発達科学などの手法と知見を基礎とし、乳幼児における言語・認知・感情などの発達プロセスの解明とその応用を目指す。研究内容のキーワード：言語習得・認知発達・社会的認知・言語訓練支援システム
心理学	教授 唐沢穰	社会心理学，社会的認知，集団間関係，法・道徳意識，政治意識
	教授 大平英樹	生理心理学，神経イメージング，精神神経免疫学，感情と認知，ストレス
	教授 田邊宏樹	社会脳科学（社会的相互作用，特に二者間コミュニケーションの神経メカニズム研究），認知神経科学・生理心理学（ヒト脳イメージングや脳波を用いた脳機能ダイナミクス研究），計算解剖学の手法を用いた古神経学・認知考古学
	准教授 北神慎司	目撃証言，視覚シンボル（ピクトグラム），認知心理学，教育工学
	准教授 平井真洋	発達認知神経科学（例：赤ちゃん，子ども，自閉スペクトラム症，ウィリアムス症候群児者などを対象とした脳波，眼球運動，生体信号，動作・行動計測），身体的認知（例：他者視点取得，バイオリジカルモーション，他者行為推定など），社会的認知における遺伝-環境要因の解明，認知多様性。
	准教授 石井敬子	社会心理学，文化と認知，文化と感情，文化の維持・変容
	准教授 磯村朋子	生理心理学，発達心理学，社会的認知，身体的認知，社会相互作用，生体計測

＊ NTT 研究所所属

情報システム学専攻 教員と研究内容

下に入学後に指導を受けることのできる教員とその研究内容を示します。

入学後に所属を希望する研究グループの英字コードを，希望の強い順に第1希望から第5希望まで，志願理由書の志望教員／講座／研究グループ欄に記入してください。配属先は原則として，入試成績，志願理由書の記載内容及び研究グループの受入れ条件を考慮して決定します。また，研究テーマは指導教員と相談の上で決定します。

講座	研究グループ	担当教員	研究内容
計算論	A	教授 酒井正彦 准教授 西田直樹 助教 橋本健二	● プログラム理論とその応用（書換え型計算モデルの性質解析，難解プログラミング言語，プログラム変換による高信頼プログラムの生成，定理自動証明を利用したプログラム検証） ● SAT/SMT ソルバーの開発とその応用（最適化問題の記述法と解法，モデル計数） ● 形式言語理論とその応用（木オートマトン・木変換器の性質解析，XML 文書圧縮）
	B	教授 番原睦則	● SAT ソルバーの理論と実践（ソルバー開発，制約充足問題の SAT 翻訳） ● 制約プログラミングの理論と実践（処理系開発，時間割問題への応用） ● 解集合プログラミングの理論と実践（多目的最適化，知識駆動型 AI）
情報プラットフォーム論	C	教授 枝廣正人	● 並列分散組込みシステム向け最適化・設計・開発技術 ➢ モデルベース並列化とマルチ・メニーコア向け設計方法論
		客員准教授 大谷寿賀子 (価値創造研究センター・連携講座：ルネサス エレクトロニクス株式会社)	● 組込み向けプロセッサ・アーキテクチャ ● アプリケーション・ソフトウェアプラットフォーム
	D	教授 高田広章** 准教授 松原 豊 准教授 吉田則裕* 特任准教授 渡辺陽介** (*附属組込みシステム研究センター) (**未来社会創造機構)	● 組込み/IoT システム（特に自動車や宇宙機）の設計・開発技術 ● システムソフトウェア（リアルタイム OS，仮想化，通信ミドルウェア） ● ディペンダビリティ確保技術（特に安全性やセキュリティのリスク分析，設計，検証） ● ソフトウェア工学（特にコードクローン検出，リファクタリング，テスト） ● 実世界データ基盤技術（ダイナミックマップ，センサデータ処理）
		客員教授 大山博司 (価値創造研究センター・連携講座：オークマ株式会社)	● リアルタイムシステム設計・開発技術 ● 組込みソフトウェアコンポーネント技術 ● 組込みシステム向きプログラミング言語
	E	教授 石原 亨 助教 増田 豊* (*附属組込みシステム研究センター) 助教 斎藤 理史	● 組込みシステムの設計最適化技術 ● 低消費電力設計，高信頼化設計 ● 高効率コンピューティング技術
ソフトウェア論	F	教授 結縁祥治 准教授 中澤巧爾	● 並行計算理論（通信プロセスモデル，高信頼並行分散計算，実時間処理） ● ソフトウェア検証（モデル検査，型理論，プログラム意味論） ● 並行分散ソフトウェア（逆計算デバッグ，実時間実行環境）
	G	教授 関 浩之 助教 濱口 毅	● 形式言語理論とその応用（構造化データの圧縮法など） ● ソフトウェア基礎理論（安全性やセキュリティの自動検証技術）
	H	教授 楫 勇一 (情報連携統括本部)	● 情報理論とその応用（情報記録や通信のための符号化方式） ● 情報セキュリティ（要素技術の応用，省電力・モバイルセキュリティ）
	I	准教授 森崎修司	● ソフトウェア工学(ソフトウェアメトリクス、リポジトリマイニング) ● ソフトウェア品質保証(コードレビュー／ドキュメントレビュー手法、サイバーフィジカルギャップ検出、アジリティ／エボルバビリティ最適化手法)

情報ネットワークシステム論	J	教授 片桐孝洋 准教授 大島聡史 助教 永井 亨	● 高性能計算技術（スーパーコンピュータ活用，大規模並列数値計算法，ソフトウェア自動チューニング，GPU コンピューティング，機械学習応用） ● 大規模数値計算データの可視化技術 ● 数値計算系応用ソフトウェア開発・利用高度化
	K	教授 村瀬 勉	● 次世代モバイルワイヤレスネットワークの制御・性能評価，無線 LAN の制御と評価，モバイルエッジコンピューティング，車車間通信，デバイス間通信 (D2D, IoT, EoI)，分散通信方式 ● 輻輳制御技術，ユーザ誘導型通信技術，ユーザ・ネットワーク協調制御 ● トラスタブルネットワーク，高性能・高信頼ネットワーク ● アドホック・マルチホップネットワーク
		客員教授 牧戸 知史 (価値創造研究センター・連携講座：株式会社豊田中央研究所)	● アドホック・マルチホップネットワーク、車車間ネットワーク
	L	准教授 嶋田 創 助教 山口由紀子	● 情報セキュリティ（セキュリティナレッジ構築，セキュリティ教育など） ● ネットワークセキュリティ（マルウェアや悪性通信の検知と対応の自動化など） ● 基盤ネットワーク運用（サービス維持管理の自動化など）

知能システム学専攻 教員と研究内容

入学後に指導を受けることができる教員とその研究内容を下表に示す。

志望する研究グループの英字コード (A～M) を「志願理由書」の「志望教員／研究グループ」欄に記入すること（教員名を記入してはならない）。なお、同欄には必ず第1志望から第5志望まで全て記入すること。空白の場合は、該当する順位の志望研究グループはないものとして扱う。



各教員／研究グループの連絡先は研究科Web サイトの「教員一覧」 (https://www.i.nagoya-u.ac.jp/prof/study_a07/ ※右上のQRコードからもアクセス可能)を参照すること。

講 座	研究グループ	担当教員	研究内容
基盤 知能 情報学	A	准教授 出口大輔	【日常生活支援のための人理解】 監視カメラや赤外線カメラなどで撮影した低品質な動画像や、学習データの乏しい動画像から人物の属性や姿勢、行動などを認識する研究を行う。そして、これらの要素技術を活かした宅内見守りシステムなどの応用技術について研究に取り組む。 【高度運転支援のための環境理解】 自動車に搭載されたカメラやセンサを用いることにより、自車位置推定、障害物検出、地図構築といった環境理解に関する研究を行う。そして、これらの要素技術を活かした高度運転支援システムや自動運転システムといった応用技術について研究に取り組む。
	B	教 授 武田一哉† 特任教授 二宮芳樹† 特任准教授 石黒祥生† 准教授 藤井慶輔	自動運転技術や、音声対話などを実現するために、大規模データに基づく機械学習や統計的信号処理の研究を行っている。実世界の物理現象や日常生活やスポーツなどにおける人間の行動、性質を理解、再現し、人間と機械が調和、協調することで、人間の能力の拡張、知的な情報メディアの研究を行う。また、これらの高度な技術を人間社会に還元するために、どのような問題をどのような技術で解決し、どう日常生活に組み込んでいくかという、ヒューマンコンピュータインタラクションの研究を行う。 【運動行動情報処理】自動運転、環境理解、ドライバ行動認識、危険予測 【音声・言語情報処理】音声認識、音声対話、3D オーディオ、音源分離、楽曲追跡、自動採譜 【スポーツ行動情報処理】スポーツ行動認識・予測、集団運動モデリング 【インタラクション】自動運転車両内インタラクション、インフォテインメント、ヒューマンオーグメンテーション
	C	教 授 戸田智基†	様々な音信号を対象とした音メディア情報処理に関する研究を行う。音声コミュニケーション支援、学習支援、創作支援、見守り支援、障害者支援などを対象として、音声情報処理、音楽情報処理、音環境情報処理を軸に、物理的な制約を超えて人の身体機能や認知機能を拡張するための基盤技術および応用技術の研究に取り組む。 【音声情報処理】音声分析・認識・翻訳・変換・合成、意図理解・対話制御 【音楽情報処理】楽音分析・分離・加工・合成、歌声分析・変換・合成 【音環境情報処理】音響イベント検出・記号化、音環境理解、動作音解析
		客員准教授 小川厚德 （連携分：NTT 研究所）	日常の人の活動（会話、言語処理、学習、協調作業、情報の要約など）を支援する環境づくりを目指し、音声メディアの分析・伝達・合成とそのユーザインタフェースの研究を進める。特に、統計的信号処理の観点から、音のシーンのモデル化、会話状況分析、音声強調・認識、および知的な音声インタフェースの研究を進める。

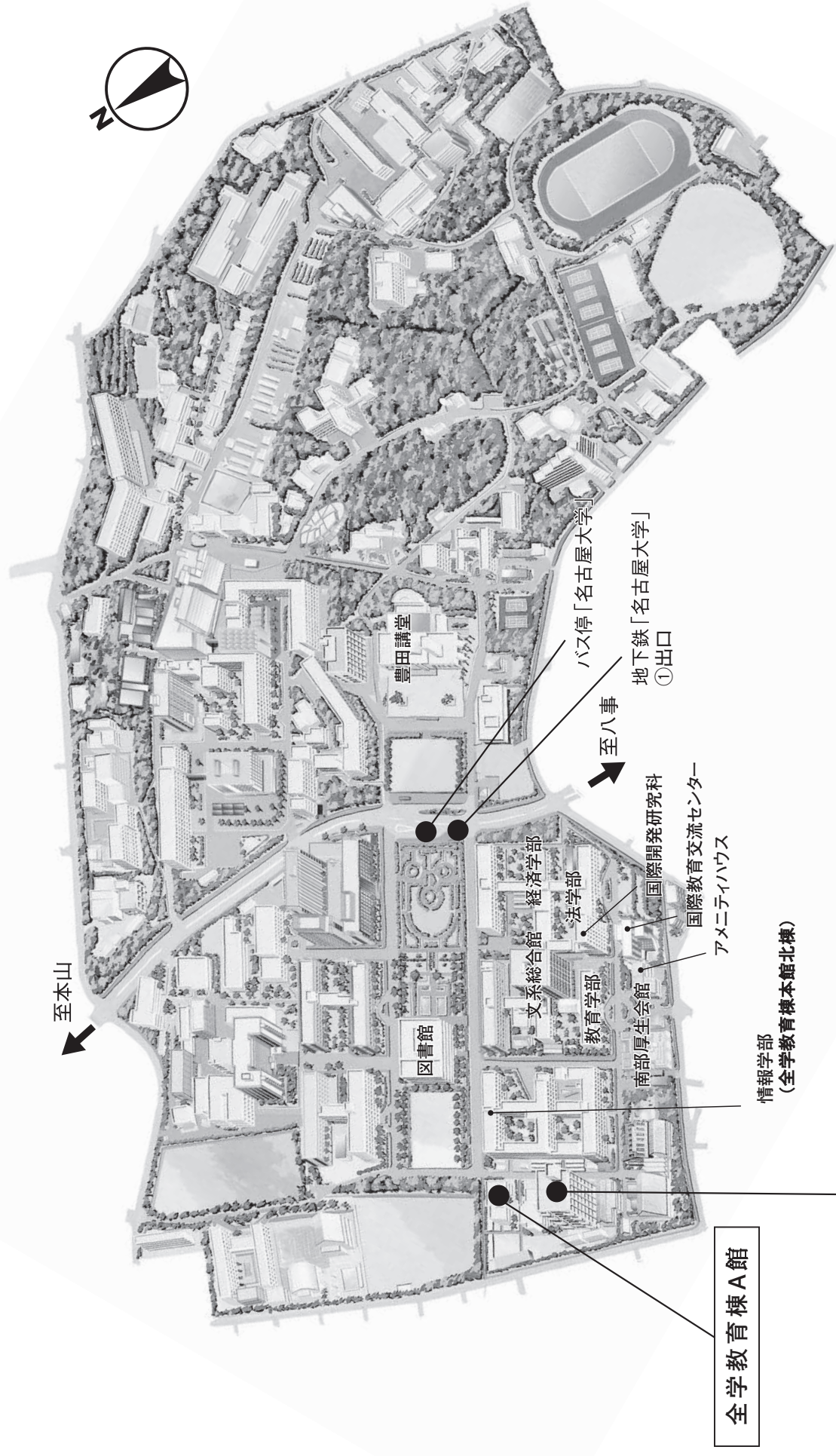
	D	教 授 井手一郎	実世界コンテンツ（例：ニュース、食・健康、スポーツ、観光・旅行、漫画・アニメ）を対象に、その分析・生成に関する応用研究に取り組む。また、そのために必要なパターン認識やセマンティックギャップに関する基礎研究に取り組む。その際に、以下の方法論で取り組むことが特徴である。 【コンテンツ科学】実データに基づくドメイン知識の構築・統合と、人間の能力・行動のモデル化 【マルチメディア情報処理】画像・映像を中心に、言語・音声・SNS など異種メディアの統合・活用
システム 知能 情報学	E	教 授 石川佳治 助 教 杉浦健人	【データベース・データ工学】【データマイニング】【e-サイエンス】 情報社会において日々生み出される大量の情報を有効に活用し、新たな付加価値を生み出すためのデータベース・データ工学の要素技術及び応用技術について、システム技術やアルゴリズムなどの立場から研究を行う。また、データマイニング、e-サイエンス、ウェブ情報処理などの関連する領域の研究にも取り組む。
	F	教 授 森 健策 准教授 小田昌宏††	【画像の認識・理解】【高速高精細ボリュームグラフィックス】【知的ナビゲーション】【知的増強現実感】【手術ロボット制御】 画像処理、コンピュータビジョン、コンピュータグラフィックスといったメディア処理技術の開発とそれを応用したシステムの研究に取り組む。コンピュータ支援画像診断、コンピュータ支援外科といった医用画像処理技術、人物像解析によるマルチモーダルユーザインタフェースなどの研究を行う。
	G	准教授 工藤博章 助 教 松本哲也	【生体情報処理】 生体での情報処理の解析（視覚特性と生体信号の分析）、コンピュータビジョン（人間の多様な感性に対応する柔軟な画像認識）、コンピュータオーディション（音源定位、音源分離、音源識別）、これらの応用として、視聴覚機能の代替・支援、情報技術を活用した材料開発などの研究を行う。
	H	教 授 外山勝彦†† 准教授 小川泰弘††	よりグローバルでより高度なコミュニケーションの実現を目指して、言語処理と知識処理に基づく情報システムの基礎技術とその社会への応用に関する研究・開発を行う。 【法情報処理】 法令文書の構造化、法令データベース、立法電子化・法制執務支援、法令翻訳支援、リーガルテック 【自然言語処理】 形態素解析、構文解析、膠着語間機械翻訳、対訳辞書・シソーラス自動構築、言語知識自動抽出、テキストアナリティクス(テキストマイニング)、テキスト作成支援
	I	教 授 武田浩一† 准教授 笹野遼平†	自然言語処理を利用した価値創造のための研究に取り組む。Webテキストやソーシャルメディアからの知識獲得、運動シーン等の非言語データの説明文の生成、大規模コーパスに基づく言語の分析など、多様化する自然言語処理の可能性を探究するとともに、人工知能、情報の可視化、情報探索といった関連する分野の手法を取り入れた新たな応用について研究する。
フィールド 知能 情報学	J	教 授 長尾 確 助 教 大平茂輝††	【会話文脈理解／仮想・拡張現実感／パーソナルモビリティ】 機械学習等の人工知能技術を用いて、人間同士の会話の内容やその文脈を理解し、要約や応答生成などの応用を実現する研究を行う。また、実世界の活動と情報を密接に結び付けるために仮想・拡張現実感に関する研究を行う。具体的には、建物内の環境や対象を 3D データとして生成し、シミュレーションなどを行って実世界を拡張する研究である。さらに、個人用の知的な乗り物として、自動走行可能なパーソナルモビリティに関する研究を行う。〔担当：長尾〕 【教育研究活動の記録・理解・支援技術】 高等教育研究機関における学習・研究活動に対して、アノテーションや情報抽出などの技術を適用することにより、教育研究コンテンツの蓄積と分析に基づく 21 世紀型スキルの育成・向上を図る研究に取り組む。 〔担当：大平〕

フィールド 知能 情報学	K	講 師 榎 堀 優	【ユビキタス・ウェアラブル・IoT/医療看護支援/コミュニケーション支援/体験・感性共有・技能解析・指導支援】 部屋や家具, 衣類や道具などの身近な機器が知性を持って様々な分野で人をサポートする世界を目指し, ユビキタス・ウェアラブル・IoT システムなどについて研究する。それらと人との相互作用やコンピュータによる人間感性の獲得などについても研究する。目標の実現に向けて, 新しいデバイスを構築することなども手がける。
	L	教 授 東中竜一郎	【対話システム/ヒューマンコンピュータインタラクション/ロボット/会話分析/自然言語処理】 人間と会話をするコンピュータである対話システムの研究を行う。対話システムを実際に構築することで, 人間はどうして対話ができるのか, 対話の基本原理は何なのか, 等について研究を行う。また, 対話システムを構築するだけでなく, 人間同士の対話を分析することで, 様々な観点から対話についての知見を得る。さらに, 構築した対話システムを社会実装することで, 世の中で実際に役に立つ対話システムの研究を行う。
	M	教 授 松原茂樹††	学術コミュニケーション(講演、執筆、学習、出版、発表、探索、記録などの教育・研究活動)を支える知能システムに関わる研究を、自然言語処理を基盤に展開する。 【テキストアナリティクス】(知識の獲得と利用、情報の価値化、構文・意味解析、要約生成) 【会話・談話理解】(会話コンテンツ、談話分析・生成、音声言語処理、言語認知、同時通訳) 【デジタルライブラリ】(オープンサイエンス、データリポジトリ、論文マイニング、メタデータ生成) 【教育・学習支援】(学習支援、作文支援、文校正、講義コンテンツ、講演アーカイブ)

†:未来社会創造機構 ††:情報基盤センター †††:数理・データ科学教育研究センター ‡:価値創造研究センター

‡‡:情報連携推進本部

名古屋大学東山地区配置図



地下鉄名城線
「名古屋大学」駅下車
1 番出口へ
出口より 徒歩5分

令和4年度（令和4年2月実施）

名古屋大学大学院情報学研究科
博士前期課程 入学志願票

受験番号

※

写真貼付欄
(横4cm×縦5cm)写真は、上半身脱帽正面
に写し、最近3ヶ月以内に
撮影したもの。
全面のりづけすること。

志望専攻		専攻		
フリガナ				性別
氏名				男・女
英字氏名	姓 (SURNAME)	名 (First name)	(Middle name)	
(日本人も記入必須) 生年月日	(西暦) 年 月 日生			
本籍地 (日本人のみ記入)	都・道・府・県			
国籍				
出願資格	国立・公立・私立・外国 大学 学部 学科 (西暦で記入) 年 月 日 卒業・卒業見込・3年次在中 出願資格()により事前の入学資格審査等合格(該当者のみ)			
勤務先 (在職者のみ)	Tel: () —			
現住所	□□□—□□□□ Tel: () — Tel(Mobile): () —			
緊急連絡先	□□□—□□□□ Tel: () —			
Eメールアドレス (主に使用しているもの)	@			
Eメールアドレス (通信トラブル用) (注6参照)	@			

留学生区分(留学生のみ○で囲む)
(International Student Category)

国費 MEXT

私費 Independently-financed

その他 Others()

収納証明書 貼付欄

本学在学学生及び卒業生のみ記入

(学生番号 □□□□□□□□)

注:1. ※印は記入を要しない。

2. 志願票、受験票、写真票及び履歴書の所定欄に漏れなく記入すること。

3. 英字氏名について、姓はすべて大文字ブロック体、名およびミドルネームは最初の一文字のみ大文字で二文字以降は小文字とすること。

4. 勤務先欄は、有職者のみ記入し、所属部課等まで記入すること。

5. 現住所及び緊急連絡先欄は、○○○○マンション又は○○方まで正確に記入すること。

6. Eメールアドレス(通信トラブル用)欄は、通信トラブル用として、主に使用しているものの他にもう一つEメールアドレスを記入すること。

志願理由書

氏 名		※受験番号	
-----	--	-------	--

志望専攻名	第1志望教員/講座/ 研究グループ	第2志望教員/講座/ 研究グループ	第3志望教員/講座/ 研究グループ	第4志望教員/講座/ 研究グループ	第5志望教員/講座/ 研究グループ
専攻					

志望教員／講座／研究グループの記入に際しては、要項と一緒に配付した、志望専攻の「教員と研究内容」を参照すること。
試験に合格した場合でも教育上の配慮により、志望する指導教員の指導を受けられないことがあるので、必ず出願前に志望指導教員に問い合わせること。
情報システム学専攻及び知能システム学専攻志望者は、志望する研究グループの英字コードを記入すること。

○志願理由を記入すること。(入学する目的、入学後に特に学修したい分野及び専攻・講座を選んだ理由などについて記入すること。)

[illegible]

令和4年度(令和4年2月実施)
名古屋大学大学院情報学研究科
博士前期課程

受験番号

※

履歴書

- 1.高等学校等の入学から2022年3月末まで空白期間がないよう記入すること。予備校、日本語学校及び研究生等の在籍事項や、所属先がなく、自宅で勉強をしている場合についてももちろん記載すること。
ただし、外国において学校教育を受けた者については小学校の入学時から全てを記入すること。
- 2.学歴・職歴問わず、名称等は省略せず正確に記入すること。
- 3.休学期間がある場合は、特記事項に記入すること。

フリガナ (Furigana)		性別
氏名	(西暦) 年 月 日生	男・女
本籍地 (日本人のみ記入)	都・道・府・県	
国籍		

学歴 ※外国において学校教育を受けた者のみ小学校から記入すること。			
区分	学校名	入学及び卒業年月	正規の修学年数
小学校	小学校	年 月 入学	年
		年 月 卒業	
中学校	中学校	年 月 入学	年
		年 月 卒業	
高校 高等専門学校	高校 高等専門学校	年 月 入学	年
		年 月 卒業	
大学	大学 学部 学科	年 月 入学	年
		年 月 卒業・卒業見込	
大学院	大学大学院 研究科 専攻 課程 他	年 月 入学	年
		年 月 修了・修了見込・その他 ()	
研究生	(大学名を記入) 大学研究生	年 月 から 年 月 まで	
予備校、日本語学校等	(学校名を記入)	年 月 から 年 月 まで	
その他	(所属先がなく、自宅で勉強をしていた場合は「自宅で受験勉強」などと記入)	年 月 から 年 月 まで	
特記事項 (学歴で休学期間等あれば記入)			

職歴・研究歴(最近のものから記入)※在職者で入学後退職する予定の場合は、退職する旨余白に記載すること				
勤務先(会社名)及び所在地	勤務期間	所属部課	役職名	職務内容
	年 月 から 年 月 まで			
	年 月 から 年 月 まで			
	年 月 から 年 月 まで			
	年 月 から 年 月 まで			
	年 月 から 年 月 まで			
	年 月 から 年 月 まで			

【注】 ※印欄は記入しないでください。

令和4年度(令和4年2月実施)
名古屋大学大学院情報学研究科
博士前期課程

受験番号

※

【注】※印欄は記入しないでください。

受 験 票

志望専攻		専攻			
フリガナ(Furigana)					
氏名					
生年月日	(西暦)	年	月	日生	男・女

1. 本票は受験中、常に携帯し、入学の手続きが完了するまで保存すること。
2. 本票は、試験の際に机の上に置いて監督者に見えるようにすること。
3. 本票は、監督者の請求があれば何時でも見せること。
4. 遅刻した者は、指定された試験室の監督者に申し出ること。

令和4年度(令和4年2月実施)
名古屋大学大学院情報学研究科

受験番号

※

【注】 ※印欄は記入しないでください。

博士前期課程
写 真 票

写真貼付欄
(横4cm×縦5cm)

写真は、上半身脱帽正面に
写し、最近3ヶ月以内に撮影
したもの。
全面のりづけすること。

志望専攻	専攻
フリガナ (Furigana)	性別
氏名	男・女
(西暦)	年 月 日生

※出席確認欄

専門	
口頭試問	
口述試験	

R4.2MC

受験番号

※

【注】※印欄は記入しないでください。

宛名シート

- ・このシートは「入学手続き書類」等を送付する場合の宛名として使用するので、令和4年3月上旬に受信できる住所を正確に記入すること。(3つとも同じ住所を記入)
- ・日本国外在住者は、住所及び氏名を英字でご記入ください。
- ・このシートを提出後に、住所の変更があった場合は、速やかに以下へお知らせください。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院情報学研究科教務学生係
E-mail: admission@i.nagoya-u.ac.jp

〒 -

(住所)

(氏名)

様

〒 -

(住所)

(氏名)

様

〒 -

(住所)

(氏名)

様

令和4年度 名古屋大学大学院情報学研究科博士前期課程
「オンライン口述試験・口頭試問連絡票」の提出について

オンラインによる入学試験を実施する際にすぐに連絡が取れるように、E メールアドレス及び携帯電話番号などの連絡先をインターネットによるアンケートフォームにてご提出ください。以下の QRコードまたは URL にアクセスし、募集要項に記載のある願書受付期間内(令和3年12月27日(月)日本標準時16時まで)に入力してください。

入力は令和3年12月15日(水)日本標準時0時から可能です。

QR コードまたは URL にアクセスし、
願書受付期間内にご提出ください。 →



URL:

<https://forms.office.com/r/B4ScabhaKG>



※「オンライン口述試験・口頭試問連絡票」の内容は、郵送で提出する「入学志願票」の内容と必ず一致してください。記入した「入学志願票」を見ながら入力することをお勧めします。

なお、この連絡票を提出しても、出願書類が願書受付期間に届かない場合や、出願書類に不備があった場合は、受験できませんので、注意してください。

【照会先】〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院情報学研究科教務学生係 TEL 052-789-4721・4722

<https://www.i.nagoya-u.ac.jp/>

E-mail: admission@i.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学大学院情報学研究科長 殿

誓 約 書

令和 4 年度名古屋大学大学院情報学研究科博士前期課程入学試験のオンライン口述試験・口頭試問を受験するに当たり、下記事項を順守することを誓約いたします。

- ・ 自己の責任において、ビデオ通話が可能な機器（カメラ付きパソコン、タブレット、スマートフォン等）を用意するとともに、面接を受けることを予定している場所（自宅、通学する教育機関等の個室）で、良好かつ安定的なインターネット環境を確保すること。
- ・ 面接を受ける場所（以下「試験室」という。）には本人以外入室せず、試験開始から終了まで一人であること。また、試験室は静寂な状態を保つよう努めること。
- ・ オンライン口述試験・口頭試問に使用する以外の通信機器は、電源を切り、試験室に持ち込まないこと。場所の都合上やむを得ず持ち込まざるを得ない場合は、試験開始から試験終了まで当該通信機器に触れないこと。
- ・ 試験中に撮影、録画、録音を行わないこと、及びそれらの画像、映像、音声データを SNS 等で配信しないこと。
- ・ 試験実施に際して知り得た情報を、合格発表まで口外しないこと。

年 月 日

志望専攻名

氏名（自署）

令和4年度(令和4年2月実施)
名古屋大学大学院情報学研究科
博士前期課程入学試験

受験番号
※

※印欄は記入しないでください。

出願書類チェック表

志望専攻 (○で囲む)	数理情報学専攻	複雑系科学専攻	社会情報学専攻	心理・認知科学専攻	情報システム学専攻	知能システム学専攻
フリガナ						
氏名						

- ・以下の順番(入学志願票が一番上)になるよう出願書類をこのチェック表とともに郵送してください。
- ・提出する書類の「出願者チェック欄」に、✓印を記入してください。
- ・提出が不要な書類のチェック欄には、斜線「/」を引いてください。

提出書類	対象者	ダウンロード	自分で用意	出願者 チェック欄	大学 チェック欄
入学志願票【様式1】 (卒業年月日が、証明書と相違ないか確認すること。入学検定料を支払い後、「収納証明書」を入学志願票の所定欄に貼ること。)	全員	○			
受験票	全員	○			
写真票	全員	○			
志願理由書【様式2】 (志望教員名、又は希望する研究グループの英字コードを必ず記載すること)	全員	○			
履歴書【様式3】 (高等学校等の卒業から現在まで空白期間がないよう記入すること。研究生や予備校等の在籍事項についても記載すること。外国において学校教育を受けた者については初等教育(小学校)の入学時から全てを記入すること。)	全員	○			
受験票送付用封筒(市販の封筒) (長形3号封筒に344円分の切手を貼り、送付先の住所、氏名を記入。日本国外への送付を希望する場合は、A4サイズの封筒に日本の切手1400円分または国際返信切手券(IRC)11枚を同封)	全員		○		
可否通知送付用封筒(市販の封筒) (長形3号封筒に344円分の切手を貼り、送付先の住所、氏名を記入。日本国外への送付を希望する場合は、A4サイズの封筒に日本の切手1400円分または国際返信切手券(IRC)11枚を同封)	全員		○		
宛名シート	全員	○			
卒業(見込)証明書、学位(取得見込)証明書又は出願資格を証明する書類 (名古屋大学情報学部卒業(見込)者、情報文化学部卒業(見込)者は不要)	該当者		○		
成績証明書 (名古屋大学情報学部卒業(見込)者、情報文化学部卒業(見込)者は不要)	該当者		○		
TOEIC L&R公開テスト、TOEFL-iBT、IELTSまたはDuolingoの成績 通知書(コピーを提出する場合は自筆にて「これは原本の複写に相違ありません」と記入) 後日提出する場合は、右のチェック欄に「後日」と記入。TOEIC IPテスト及びTOEFL ITPテストは対象外。	全員		○		
オンライン口述試験に関する誓約書【別紙2】	全員	○			
オンライン口述試験・口頭試問連絡票【別紙1】参照 (インターネットにより出願期間内に提出すること)	全員	インターネットにより提出を済ませたら右にチェック→			
その他卒業論文等、本人の研究能力を示す資料(提出は任意)	該当者		○		
在留カードのコピー(両面)等 (日本在住の外国人は在留カードのコピー等、日本国外在住の外国人はパスポートの写し等)	外国人全員		○		
受験承認書(在職中で入学後も引き続き在職する者のみ) (入学後退職する予定の場合は、その旨記した申出書)	該当者		○		
(外国人留学生のみ)日本語能力試験の合格証又は成績通知書 (提出は任意。コピーを提出する場合は自筆にて「これは原本の複写に相違ありません」と記入)	該当者		○		
国費留学生の証明書 (学内からの出願者は提出不要)	該当者		○		
最終チェック	ダウンロードした様式は、A4判用紙に片面印刷されていますか？				
	記入もれがないか、すべての書類を確認しましたか？				

必要料金
分の切手
を貼って
ください

〒464-8601

名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院

情報学研究科教務学生係

行

簡
易
書
留

「博士前期課程入学願書在中」

出願者	志望研究科 専攻名	情報学研究科 博士前期課程
		数理情報学専攻 複雑系科学専攻 社会情報学専攻 心理・認知科学専攻 情報システム学専攻 知能システム学専攻 ※志望する専攻名を ○で囲ってください。
	住所	郵便番号
	氏名	

※出願書類を郵送する際は、この宛名用紙を市販の角型2号封筒（A4サイズ）
に貼り付けて送付してください。

[前期課程出願資格(8)による個別審査用]

令和 年 月 日

出願資格(8)による事前審査申請書

名古屋大学大学院情報学研究科長 殿

名古屋大学大学院情報学研究科博士前期課程 _____ 専攻

に出願したいので、出願資格(8)により事前審査を受けたく、関係書類を添えて申請いたします。

フリガナ
(志願者) 氏 名 _____

現職等(所属機関・部署・職名等, 学生の場合は大学名・身分)

連絡先住所 _____

電話番号 _____

携帯電話 _____

メールアドレス _____

[前期課程出願資格（9）による審査用]

令和 年 月 日

出願資格(9)による個別審査申請書

名古屋大学大学院情報学研究科長 殿

名古屋大学大学院情報学研究科博士前期課程 _____ 専攻

に出願したいので、出願資格（9）により個別審査を受けたく、関係書類を添えて申請いたします。

フリガナ
(志願者) 氏 名 _____

現職等（所属機関・部署・職名等，学生の場合は大学名・身分）

連絡先住所 _____

電話番号 _____

携帯電話 _____

メールアドレス _____

[前期課程出願資格（9）による審査用]

個別審査シート

氏名 _____

大学を卒業した者と同等以上の学力があるという理由を記入してください。

[前期課程出願資格（9）による審査用]

研究職／専門職従事証明書

令和 年 月 日

証明者

[所属・職名・氏名]

㊞

電話番号 _____

フリガナ 氏 名 生年月日	(西暦) 年 月 日生	性別	男・女
現 職 等 (所属・職名等)			
年 月 日	職務内容及び役割		

注) 志願者を熟知する所属の長、又は指導的立場にある者が証明すること。